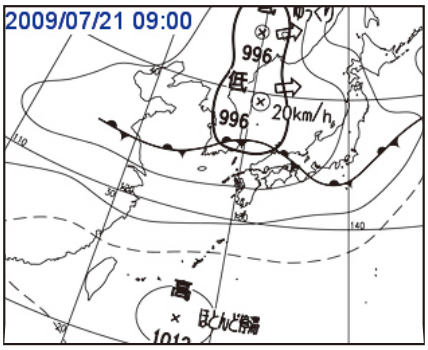
1-12 平成21年7月21日豪雨 （平成21（2009）年7月19日~31日）

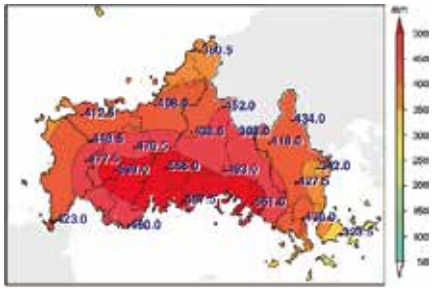
国道 262 号（防府市）

防府市真尾



天気図（7 月 21 日 09 時）

防府市内


総降水量分布図

山口市稔畑

山口市小鯖

椹野川越流（山口市）

気象の概要	■ 7月20日から21日にかけて、山口県の北の海上をゆっくり南下する梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が非常に活発となったことから、大雨となった。 ■ 21日、美祢市桜山で日最大1時間降水量90.5mm、防府で日降水量が観測史上１位となる275.0mm、山口で日最大降水量277.0mmを観測し、県内各地で記録的な大雨となった。		
	総降水量（mm）　557.5（防府）	日降水量（mm）　277.0（山口）	１時間降水量（mm）　90.5（桜山）
被災場所	県内全域、特に防府市		
被害の規模	（人的被害）死者22人、重傷者12人、軽傷者23人 （住家被害）全壊33棟、半壊77棟、一部破損51棟、床上浸水696棟、床下浸水3,864棟 （その他被害）道路397ヶ所、河川893ヶ所、がけ崩れ95ヶ所　など ＜被害額総計＞約181億円		
被害の特徴	■ 7月19日から21日の3日間で、防府で331.5mm、山口で294.0mmを記録し、7月の月間降水量平年値に相当する大雨となり、大規模な土石流や河川の氾濫などを引き起こした。 ■ 19日から26日にかけ、西日本で梅雨前線の活動が活発になり、中国地方および九州北部を中心に記録的な大雨となったことから、気象庁では7月19日から26日にかけて災害をもたらした大雨を「平成21年7月中国・九州北部豪雨」と命名した。		

避難をするときには、隣や近所の人に声をかけよう。地域のみんなで助けあうことで、被害を最小限に抑えることができるんだ。

体験談 『土石流のすさまじさに呆然』 山口市 男性 行政職員

国道 262 号（防府市）

当時、私は防府土木建築事務所で道路維持管理の担当をしており、当日は朝から国道 262 号の現場にいて土石流を体験しました。

降り続く雨が心配になり、８時前には職場に着きました。８時 10 分頃、警察から「佐波山トンネルの手前で道路に濁り水が出ているので対応して欲しい。」との一報が入り、すぐに担当の業者へ現場へ行ってもらうよう連絡するとパト車で現場へ急行しました。現場に到着すると、佐波山トンネル手前の法面が小さく崩壊し濁り水が流れ出ていたので土嚢積みを指示しました。また、市斎場へ行く道の法面も崩落し濁り水が流れ出ていたので、すぐに市へ対応を依頼しました。

11 時前頃、右田ヶ岳の方から濁った水が異常に流れ出しており、車道を流れる濁り水も多くなってきたので車両の走行は危険と判断し、下り車線（山口～防府）の通行止めを指示しました。

11 時を過ぎてから再び雨が酷くなり、道路沿いの剣川から濁流が溢れ出していました。また、業者から「上り車線（防府～山口）も土砂が出て通行が厳しくなっている」と報告が入ったため、すぐ上り車線も止めるように指示しました。さらに、様子を見ていると、近くにいた作業員が「山鳴りがする」と言うので注意して聞くと左右の山のあちこちで「ゴトゴト」と大きな岩と岩が当たっている音が聞こえてきました。11 時 55 頃、パト車に戻ろうとした時、右田ヶ岳からの土石流、いわゆる“鉄砲水”を目撃しました。道路には大量の土石と流木の残骸、一瞬の出来事でした。上り車線を通行中の車が１台吹っ飛ばされたのを見て、すぐに警察に通報しました。

何分過ぎたか定かではありませんが、今度は反対側の山麓から大規模な土石流が発生しました。岩や流木が波を打ってどんどん市内の方へ流れていくのを見て、唖然とし、その瞬間、体が硬直して血の気が失せていくのを感じました。

目の前の車は幸運にも土石流の直撃は免れ、沈まずに浮いた状態でした。車の中の人を助けようと思い近づこうとしたが目の前は濁流や流木の山があり容易に近づけずやきもきしていると、中の人が自力で出てきました。大きな声で叫んで流木の上を伝ってこちらに来るよう誘導し、お互いが手を伸ばせば何とか届く所まで来ました。しかし、１対１では濁流に流されると思い、近くにいた作業員を呼んでお互いの服を掴んで踏ん張り運転者を引っ張りました。その瞬間、運転者が足を滑らせ泥水に沈みました。これで自分たちも足を滑らせたら３人とも終わりと思い必死で引っ張り出しました。運転手の人に「一人だけですか」聞いたら「はい」と答えたので少しホッとしました。

その後、中央分離帯へ避難しましたが、水嵩も徐々に増してきたので、これ以上ここに居てはみんな危ないと思い、少し流れが落ち着いた頃を見計らって濁流の中を歩道側へ移動し、もう１、２歩で歩道へたどり着く瞬間、濁流に足を取られそのまま倒れ込んでしまいました。10m くらい流されたでしょうか、ようやく街路樹に掴まりました。転倒の際、時計は壊れ、携帯電話には水が入り使用不能、メガネのレンズに泥がべったり洗おうにも泥水しかない。そういう状態で、約３時間流木や岩が流れてくるのを避けながらその場から動けませんでした。

国道 262 号（防府市）

夕方近くになるとやっと雨は止んで、濁流も少しずつ引いて動ける状態になったので市内方面へ移動しました。結局、事務所へ着いたのが 18 時頃だったと思います。鏡で自分の姿を見たら泥だらけ、まるで田んぼの中でバレーボールでもしたような姿でした。

体験談 『近所へ避難を呼びかける ～危ないと思ったら、早めの避難を～』 防府市 男性 自治会長

国道 262 号（防府市）

７月 21 日、前日からの雨脚はさらに強くなり、高台に位置する我が家から伺える周囲の景色が刻々と薄暗い雲域に変わっていくように見えた。

午前９時を過ぎていただろうか国道 262 号の片側二車線のうち一車線が大量の雨水で覆われ、拳ぐらいの石ころが勢いよく流れ出す。これまでにも、佐波山トンネル出口を塞ぐほどの土砂崩れは何度も起こっており、国道が通行止めになることはあったが、今回は、「ただごとではない」という予期せぬ不安とこのままではいけないという動揺から、ご近所に避難するよう一軒ずつ伝えて廻った。

午前 11 時を過ぎた頃、避難を申し出た一人住まいのご老人を車で右田公民館へ避難させた。その後公民館から自宅に戻ろうとすると、国道は通行止めになっていたため、国道脇の狭い市道を通って自宅に向かった。市道が登り勾配に近づいた瞬間、一挙に土石流が車正面に迫ってきた。車が 20m ぐらい後ずさりし、車の天井を土石流が覆った。車の左側は流木で埋め尽くされ、まるで車が防波堤を築いたような状態だった。しばらくして、流れが緩やかになった時を見逃さず、車から脱出、道路そばの民家の玄関ポーチの柱にしがみつき難を逃れた。土石流の発生から 50 分ぐらいたっただろうか、やっと我に返り、車はその場に放置し、自宅へ向かった。土石流の隙間を縫うようにしてやっとの想いで自宅にたどり着くと、我が家は想像した以上に被害は少ないほうだった。近所の若い親子４人が我が家に身を寄せていた。

午後、空を救助ヘリが旋回を繰返していた。まもなく、我が家にも救助ヘリが訪れ、全員が救助された。ヘリから見た土石流の爪痕はまさに地獄のあり様であった。

災害から１年目の平成 22 年７月 25 日には、豪雨災害の犠牲になられた４名の方々の遺志を永く後世へ伝えようと慰霊碑を建立し、慰霊祭式典を営んだ。今回の災害は住民一人ひとりの心から永遠に消えることはない。これを契機に住民の絆を大切に、災害に負けない地域づくりに取り組んでいきたい。

消防防災ヘリ「きらら」による救出

関係する石碑

防府市勝坂（ほうふしかつさか）には、豪雨災害（ごうううさいがい）の犠牲者（ぎせいしゃ）の遺志（いし）を永く後世（こうせい）へ伝え、災害を忘れないための慰霊碑（いれいひ）があるよ。

【平成 21 年 7 月 21 日豪雨災害慰霊碑】

豪雨による土石流で 4 人の命が失われた下右田・勝坂地区では、災害から 1 年目の平成 22 年 7 月 25 日に、豪雨災害の犠牲者の遺志を永く後世へ伝えようと、勝坂自治会により国道 262 号線沿いに慰霊碑が建立された。

豪雨災害慰霊碑（防府市勝坂）